

新規事業評価調書

【道路事業】

県道(仮称)豊岡インター線

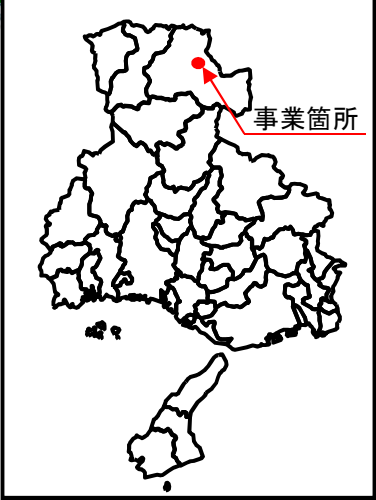
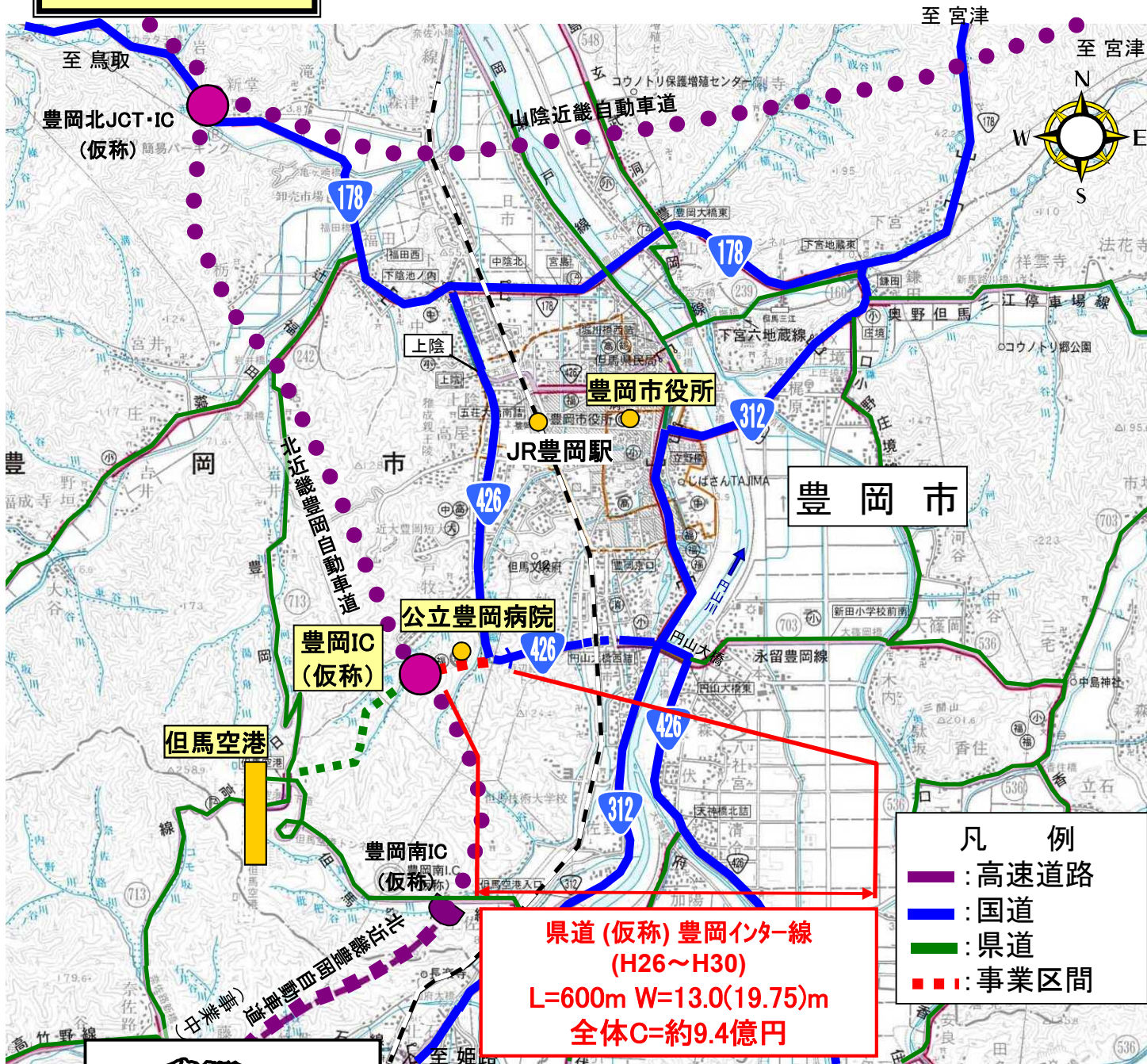
県土整備部

土木局 道路街路課

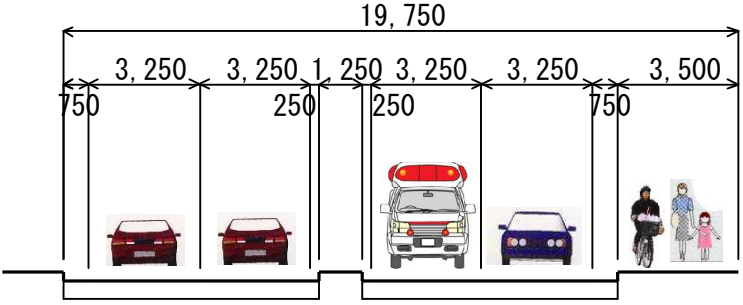
投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 門間 俊幸 (県道班長 金川 正敏)	内線	4362 (4376)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 豊岡インター線 豊岡市戸牧	とよおかしとべら 豊岡市戸牧	約 9.4 億円	約 2.9 億円	平成 26 年度	平成 30 年度
事業目的			事業内容			
本路線は、北近畿豊岡自動車道・豊岡インターチェンジ（仮称）と豊岡市街地を連絡する道路であり、高規格道路と一体となり、防災機能の強化、第3次救急医療機関へのアクセス向上を図る。			【延長】道路改築 600m 【構造規格】第3種第2級 【計画幅員】4車線 片側自歩道 3.5m 車道 13.0m（全幅 19.75m～16.25） 【計画交通量】13,800台/日(H42予測) 【負担割合】国 55% 県 45%			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性 ○アクセス性の向上 ○防災機能の強化	<p>①北近畿豊岡自動車道は、兵庫県北部の但馬地域と丹波地域を直結し、さらには京阪神都市圏との連結を強化し、地域の活性化を支援する自動車専用道路であり、豊岡市街地及び但馬空港へアクセスするために豊岡インターチェンジ（仮称）建設が予定されている。</p> <p>本路線は、北近畿豊岡自動車道・豊岡インターチェンジ（仮称）と豊岡市街地を最短で結ぶ道路としてアクセス性の向上に大きく寄与するため、北近畿豊岡自動車道の豊岡道路事業（現在都市計画手続き中）に合わせて供用する必要がある。</p> <p>②平成16年10月台風23号円山川の水害では、国道312号等幹線道路が通行止めになり、豊岡市街地や但馬地域唯一の第3次救急医療機関である旧豊岡病院への交通が遮断された。そこで災害時等の防災拠点への人員・物資輸送の交通確保を図るため、緊急輸送道路である北近畿豊岡自動車道と市内とのアクセス道路を確保する必要がある。</p> <p>③本路線は豊岡市街地と同時整備予定の但馬空港線を経由し、但馬空港へ直結させ、空港へのアクセス性の向上を図る。</p>					
(2) 有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比 B/C=27.2</p> <p>②(仮称)豊岡インターチェンジ及び(主)但馬空港線の供用に合わせた本事業の整備により、救急医療体制の充実、観光振興、企業誘致、空港利用促進等において相乗効果が期待できる。</p>					
(3) 環境適合性	①歩道部を透水性舗装にすることで、雨水の還元を図る。					
(4) 優先性	豊岡インターチェンジを含む豊岡道路は、現在、都市計画及び環境アセスの手続き中であり、当インターチェンジの供用に合わせた完成が求められる。					

位置図



横断図



道路-2

事業概要図



災害拠点病院



公立豊岡病院

426

豊岡IC
(仮称)

歩道なし
L=320m

歩道あり
L=280m

W=13.0(16.25)m

W=13.0(19.75)m

事業区間 L=600m

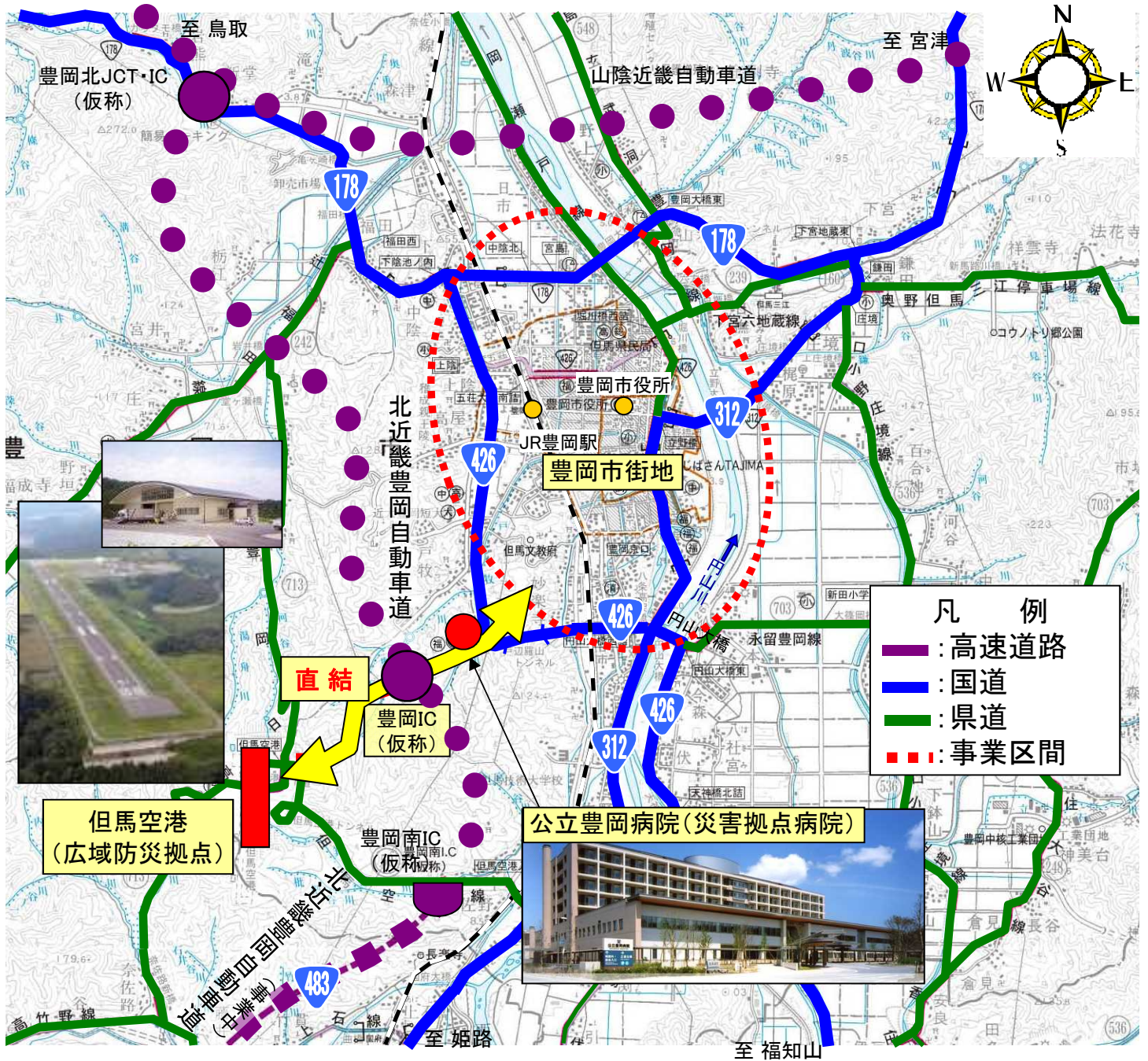
但馬空港線

北近畿豊岡自動車道

- 凡 例
- : 高速道路
 - : 国道
 - : 県道
 - : 事業区間

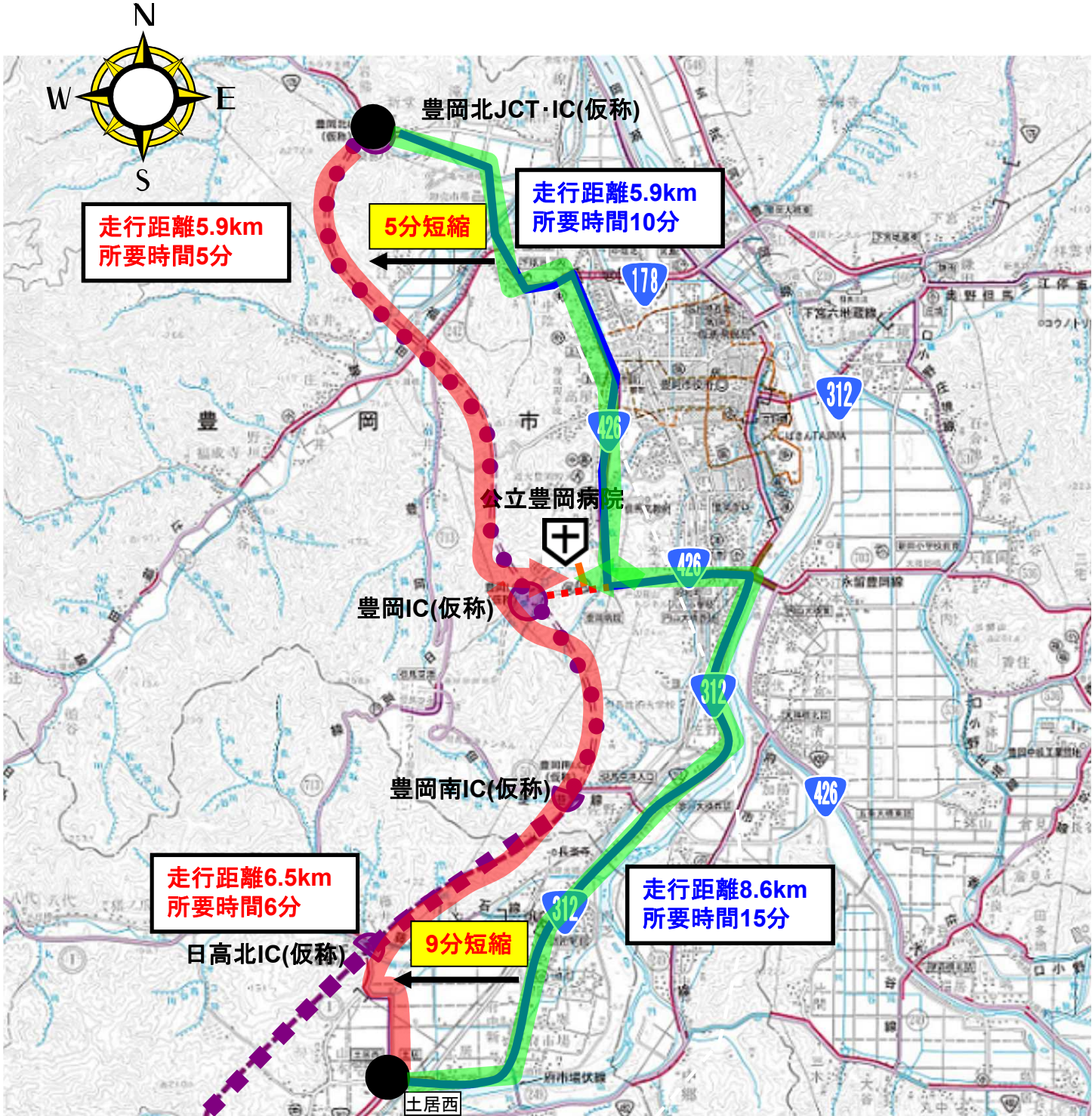
防災機能の強化

■北近畿豊岡自動車道、公立豊岡病院(災害拠点病院・3次救急医療機関)、但馬空港(広域防災拠点)、豊岡市街地が相互に直結し、防災機能が向上



救急時の時間短縮

公立豊岡病院へのアクセス性向上
■ 豊岡市北部では約5分、南部では約9分救急搬送時間が短縮



1. 実施工程表
当初計画

工 種	年 度				
	H26	H27	H28	H29	H30
調査・設計	■				
用地補償		■			
道路改良			■	■	■

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
道路	道路改築事業 豊岡インター線	① 走行時間短縮便益	22,000	計画交通： 13,800台/日 (H42)	900	800	100	27.2
		② 走行経費減少便益	2,000					
		③ 交通事故減少便益	900					
		計	24,900					

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 豊岡 IC(仮称)の供用に合わせた整備により、観光振興や企業誘致等による地域の活性化
- ② 公立豊岡病院(3次救急医療機関)へのアクセス機能の向上による救急医療体制の充実
- ③ 北近畿豊岡自動車道と国道426号を結ぶ災害時の緊急輸送道路の機能強化

道路街路事業の効果

対象事業：道路事業 県道(仮称)豊岡インター線

(1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	災害時 緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備) 救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消) 減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ 緊急輸送道路としての機能を強化 公立豊岡病院(第3次救急医療機関・災害拠点病院)へのアクセス機能の向上
		○ 異常気象時の市内幹線道路の代替道路機能
		—
	平時 救急医療体制の支援 交通安全対策	○ 公立豊岡病院(第3次救急医療機関)へのアクセス機能の向上 ○ 通過交通の転換による、現道利用者の安全性の向上
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 高規格幹線道路と豊岡中心市街地のアクセス機能の向上
	中心市街地の活性化	○ 豊岡インターチェンジ(仮称)へのアクセス機能の向上による豊岡中心市街地の活性化
	地域産業の活性化	○ 豊岡インターチェンジ(仮称)へのアクセス機能の向上による広域的な産業の活性化
	観光支援	○ 豊岡インターチェンジ(仮称)へのアクセス機能の向上による観光資源の相互連携
	地域プロジェクト等の支援	○ 北近畿自動車道の豊岡道路の供用
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節点の機能の向上	○ 通過交通の転換による、路線バスの定時性確保
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通の転換による現道の沿道環境の改善 歩道部を透水性舗装とし雨水を地下に還元